

【一】 (聞き取り問題) 放送は、試験開始二分後に始まりますので、それまでに後の問いを読んでおきなさい。

問1 本文中で、キノコが反応する栽培条件として挙げられていなかったものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 湿度 イ 窒素肥料 ウ 二酸化炭素濃度 エ 光

問2 本文中の表現であるキノコの①「ご機嫌」、②「言葉」は何をたとえたものか、最も適切なものを次のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 効率の良い栽培条件 イ 生体電位の発生数 ウ 品質 エ 論文の結論 オ 良い生育環境

問3 本文における「生体電位」の説明として正しいものには○を、間違っているものには×を記入しなさい。

- ①情報の伝達等の生命活動の際に個体内で生じる小さな電気信号を指す。
②一般的に細胞にダメージを与えると大きい生体電位が発生し、成長が遅くなる。
③電極を指す位置や間隔によって、得られる生体電位の値は異なる。
④2000年頃、生体電位の研究対象は動物の神経細胞が主流だった。

問4 従来、農家はキノコの栽培条件をどのように把握してきたか、簡潔に答えなさい。

問5 本文の主題を表すタイトルとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 工学で農家を助けたい！ イ キノコとの「対話」
ウ キノコの「声」、電気信号で エ 生体電位で、世界へはばたけ！

問6 柳橋さんは研究をどのように生かそうとしているか、「〜こと。」の形で二十字以上三十五字以内で説明しなさい。

※スクリプトは次の資料を元に作成(約八〇〇字)。著作権の関係により、掲載はできません。

朝日新聞デジタル連載・ぶらっとラボ「キノコの『声』、電気信号で」(二〇二二年七月四日 一六時三〇分配信)

【一】 次の【文章X】は原田マハの小説『スイートホーム』の一部、【文章Y】は室生犀星の詩「小景異情」その二です。【文章X】について、「私(はるちゃん)」は兵庫県宝塚市で父、母と暮らしていますが、最近母の妹である「いつこおばちゃん」が同居するようになりました。「おばちゃん」は、北海道函館市で夫を亡くした後も一人で暮らしていましたが、心配した「私」たち家族の誘いで引越してきたのです。恋人の真君がプロポーズをしてくれないことに悩んでいた「私」は、ある日「おばちゃん」と一緒に、近所に住む「お姉ちゃん(陽皆ちゃん)」の家に遊びに行きました。以下はその後に続く場面です。文章を読んで後の問いに答えなさい(設問の都合上、本文を一部省略・変更しています)。

【文章X】

※この問題は、著作権の関係により掲載はできません。

【文章Y】

※この問題は、著作権の関係により掲載はできません。

- (注)
- ※1 丹波篠山：兵庫県丹波篠山市のこと。
 - ※2 さくらちゃん：「お姉ちゃん」の娘。
 - ※3 よしや：たとえ
 - ※4 うらぶれて異土の乞食になるとも：「落ちぶれて異郷で乞食になるとしても」の意。
 - ※5 あるまじや：「し」(では)あるまい／＼ではない」の意。
 - ※6 ばや：「し」(し)よう」という意志を表す助詞。

問1 部 a s e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 I、II に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I ゆらゆら II はきはき イ I ちらちら II しじみ
ウ I ちかちか II いらいら エ I ころころ II おどおど

問3 「小景異情 その二」の作者、室生犀星と同時期に活躍した詩人を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 俵万智 イ 志賀直哉 ウ 萩原朔太郎 エ 太宰治

問4 部 A、B の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A センチメンタル ア 消極的 イ 悲観的
ウ 内向的 エ 感傷的
B がらにもない ア 恥ずかしい イ 未練がましい
ウ ふさわしくない エ もったいない

問5 部 C 「うたふ」、D 「かたみ」を現代仮名遣いに直し、それぞれひらがなで答えなさい。

問6 部 ①「だけど、やっぱり……もうひとつのふるさとは、函館」とあるが、このときの「おばちゃん」の心情として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 函館での生活が、故郷の丹波篠山の生活と同じくらい今の自分にとって大切であるということ。
イ 丹波篠山での暮らしを忘れてしまうくらい、函館での夫との生活が刺激的だったということ。
ウ 今の生活に心細さを感じて、丹波篠山や函館での心おどる生活に戻りたいということ。
エ 自分は丹波篠山ではなく函館の地に育てられたと、函館での生活に感謝しているということ。

問7 部 ②「とぼけて言う」とあるが、ここから読み取れる「私」の様子として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 過去の恥ずかしい発言を掘り返されて、怒りを覚えながらも冷静に振る舞っている様子。
イ 自分の発言だと理解していながらも覚えていないふりをして、おどけてみせている様子。
ウ 当時の姉が彼氏と来たいなどと生意気なことを言うとは思えずに、驚きを隠せない様子。
エ かつての自分に彼氏が居たことを真君に知られないように、ごまかそうとしている様子。

問8 部 ③「ふるさとはくええんやろな」について説明した次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「ふるさとは、遠きにありて思うもの」は「小景異情 その二」の一節で、文章 Y はその全文である。室生犀星は金沢に生まれ、生後すぐ住職の家に預けられたが、九歳で実父が死に、実母も行方不明となる。養母との不仲による生みの母への思慕が、彼の詩心に影響を与えた。その後、周囲の冷遇に反抗し、家を出て上京する。東京での貧乏な生活に苦しみ、たびたび金沢と東京を往復したものの、家を飛び出した室生犀星にとって金沢は「なつかしのふるさと」とはならなかった。

(1) 文章 Y の特徴について説明した文として、**適切でないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 全体的に七・五音を中心にリズム良く構成されているが、「よしや」や「そのころもて」が一行で独立していることによってテンポの変化が生まれている。
イ 最後に「遠きみやこにかへらばや」を二度繰り返すことで思いを強調すると同時に、故郷が次第に近付いてくる情景を読み手に思い起こさせる効果がある。
ウ 「あるまじや」や「乞食になるとても」などの言葉によって、東京での生活がどれだけ苦しくても決して故郷には帰らないという強い決意が表現されている。
エ 比喻や擬音語・擬態語などの表現技法を一切用いることなく、故郷に対する決別と「ふるさと」への慕情という相反する自己の心情を素直に表している。

(2) 文章Yに関連する説明と文章Xの内容とを比較した文として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 室生犀星も「おばちゃん」も今住んでいる場所の方が「ふるさと」よりも良い環境にあると感じながらも、いざ離れてみると美化された思い出に悩まされている点が共通している。

イ 室生犀星も「おばちゃん」も「ふるさと」に生母への思慕や亡き夫への哀傷などを重ね合わせながらも、自らの意思でその気持ちに整理をつけようとしている点が共通している。

ウ 室生犀星は自身を冷遇する「ふるさと」に絶望し故郷を捨てたが、「おばちゃん」は大切な思い出が詰まっている「ふるさと」を捨てた自分自身に失望している点が異なる。

エ 室生犀星は「ふるさと」に生母の影を重ねて心理的支えにしているが、「おばちゃん」は宝塚の夜景に亡き夫の姿を重ねることで精神的よりどころにしている点が異なる。

問9

部④「そんなふうに、願っていた」とあるが、このときの「私」の心情を説明した文として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「おばちゃん」が「私」だけに悩みを打ち明けてくれたことを嬉しく感じながらも、一日でも早く元気になって自分たち家族を安心させて欲しいという思い。

イ 「おばちゃん」が夫との思い出を忘れようと苦しんでいる姿を哀れに感じながらも、時間をかけて過去と向き合うことで悲しみから立ち直って欲しいという思い。

ウ いまだに夫のことを思い出しては切なくなってしまう「おばちゃん」の心境に寄り添いつつも、自分たち家族に遠慮せず心を和らげて過ぎて欲しいという思い。

エ 夫の死で弱った姿を人に見せまいと気丈に振る舞う「おばちゃん」を心配しつつも、一緒に生活をしている自分たちの気遣いにも気付いて欲しいという思い。

問10

本文の表現に関する説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「——ふるさと？」や「——わかった。」などの本文中の「——」は、「私」が「おばちゃん」に心の中で語りかけている台詞を表している。

イ 「クリスタルのビーズをちりばめた」や「宝石箱をひっくり返した」など夜景の美しさを表す比喩は、夜景に対する「私」の心理的高揚感も表現している。

ウ 「あかん」「言うてたっけ」など会話のみに方言を使用することで、「私」と「おばちゃん」のやりとりを生き生きと描き出している。

エ 台詞中の「……」は、一緒に暮らして間もない「私」と「おばちゃん」がまだ互いに心を許し合える関係になっ
ていないことを表している。

三

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

※斎藤慶典『中学生の君におくる哲学』より出題。著作権の関係により掲載はできません。

問1

~~~~~部 a s d のカタカナを漢字に直しなさい。

問2

====部 「ゆえん」の意味を漢字二字の語で答えなさい。

問3  I  III にあてはまる語を次のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい（ただし同じ記号をくりかえし用いてはいけません）。

ア だから      イ なぜなら      ウ つまり      エ しかし      オ あるいは

問4  IV にあてはまる語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 原理      イ 画一      ウ 総合      エ 感覚

問5  部①「そのちがい」の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動物たちにとっての死は、それが訪れる「現在」において当の者自身を呑み込んでしまうので、経験することはできないが、人間は過去に多くの人に訪れた死やこれから訪れる死を考えることによって、それを自分自身の経験とすることはできる。

イ 動物たちは死について考えることができず、それが訪れたことによって存在を失ってしまうため死を経験することもできないが、人間はいつか訪れる可能性として死を考え、向かい合うことはできる。

ウ 動物たちは実際に身の危険が差し迫ってから、それから逃れようと行動し、失敗した場合に限って死を経験することになるが、人間はあらかじめそうした危険が訪れる可能性を考えて行動できるので、動物たちのような突然の死は経験せずにすむ。

エ 動物たちにとっての死は、生きるための戦いに敗れた当の者自身にしか経験できないものであるが、人間は自分以外の人の死を経験することによって、いつか自分自身にもそれが訪れる可能性があると考えることができる。

問6  部②「追い越すことのできない」を「 が存在しない」と言いかえたとき、 にあてはまる語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理想      イ 未来      ウ 勝敗      エ 他者

問7  部③「可能性という捉え方がもはや十分には機能しなくなってしまふ」について、この状況を次のように説明したとき、 にあてはまる漢字三字の語を答えなさい。

に可能性が奪われるという状況。

問8  部④「自分が自分である」とあるが、そのために必要な条件として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多様な可能性の中から自分の意思で選び取ったものに対しては、自分で責任を担おうという意識を持つこと。

イ 自分に与えられている可能性の中から何かを自分の意思で選び出し、それを実現させるための挑戦をすること。

ウ 自分の可能性を考え、何かになろうと努力して得られた結果がささやかだからこそ、それを誇りに思おうとすること。

エ 多くの可能性の中から自分の進むべき道を選ぶ際に、誰からの強制を受けることなく、独立した状態であること。

問9 筆者の考えを踏まえるならば、あなたならどのように「人間らしく生きよう」と考えますか。三〇〇字以内で書きなさい。ただし、次の条件を全て満たしていること。

条件1 二段構成で書き、それぞれの段落の始めは一字下げること。

条件2 一段落目で、筆者の考えを七〇字程度で簡潔に示すこと。

条件3 二段落目で、一段落目の内容に従って、具体的に自分の考えを述べること。

条件4 「だ・である」体（常体）で書くこと。

条件5 二〇〇字以上三〇〇字以内に収めること。